

「いわての復興教育推進事業（いわての復興教育スクール〈沿岸〉）」成果報告書

学校名：岩手県立山田高等学校

I 事業の概要

1 地域及び本校の実情

本校は東日本大震災の被災地区にある。仮設住宅やみなし仮設住宅で生活する町民は減り、住宅や店舗の再建が進められてきた。震災の記憶風化を防ぎながら、地域の更なる発展に本校生徒も貢献することが求められている。

本校は生徒数が減少し、令和2年度からは1学年1学級の定員となる。また、山田中学校からの入学者が例年85%以上で、高校入学後新たな人間関係を構築しづらい状況にある。

このような状況を踏まえ、復興への貢献、学び拡大、コミュニケーション力の伸張等を目標とし本事業を活用した。

文化祭では、本校生徒が山田町の特産品を説明及び販売した。また、名久井農業高校の収穫した野菜販売や模擬店の販売に加わり、販売活動を行った。

収穫感謝祭では、名久井農業高校全生徒に対し、山田町の震災時の状況とその後の復興状況をプレゼンテーションした。また、餅つきを体験したり、バーベキューを食べるなどの活動を行い、交流を深めた。



写真：復興状況の発表

II 取組の概要

1 他校交流

(1) 青森県立名久井農業高等学校

- この交流事業は、東日本大震災の際、当時の名久井農業高校の教職員や生徒たちが町に1校しかない、同じような環境にある県立高校を支援したいとの思いから始まった支援交流事業である。

- 10月2日、本校の本年度第2回目の避難訓練（地震想定）に、名久井農業高校生徒18名が参加した。名久井農業生徒は、午前中、鯨と海の科学館を見学し、本校を訪問した。

本校訓練では、地震発生後に本校生徒が声をかけ誘導し避難。その後、第一体育館で日本赤十字の皆さんを講師として、負傷者の運搬や応急処置の方法を学び、両校生徒が協力して取り組んだ。



写真：収穫感謝祭バーベキューで交流する両校生徒



写真：搬送訓練に取り組む両校生徒

- 10月26日～28日の3日間、本校生徒11名が、名久井農業高校文化祭及び収穫感謝祭に参加した。

(2) 平舘高校、雫石高校との他校交流は、「いわての復興教育推進事業（交流学習スクール）」で実例を紹介する。

2 本校独自の復興教育

(1) サマーチャレンジやまだ2019

7月29日～8月2日に、山田町社会福祉協議会の協力を受け、本校でサマーチャレンジやまだ2019を開催した。



写真：サマーチャレンジやまだ2019料理教室

本校生徒が町内の小学生を支援しながら、料理、空手道、陸上、科学、かるた、宿題の6つの教室を実施した。昨年度から内容と期間を変更し開催し、参加者も増えた。



写真：サマーチャレンジ2019 科学教室

(2) その他の復興教育

山田町社会福祉協議会が開催する、「3.11 ともしびのつどい」に参加している。ろうそくの灯で作る文字の企画、前日の準備、当日の点火等を行っている。本年度も実施予定である。(本事業からの予算活用なし)

Ⅲ 取組の成果と課題

1 他校交流 (名久井農業高校)

昨年度は、お互いの文化祭を行き来したが、今年度は、防災学習に力を入れたい名久井農業高校の希望で、本校の避難訓練に参加することとなった。

名久井農業の生徒にとっては、不案内な建物の中での訓練であり、緊張感がある中で実施できた。本校生徒にとっては、学校には外部の方もいる場合が多いので、その方々の避難支援の訓練となった。特に、文化祭を控えた次期であり、問題意識を持って実施できた。

また、日本赤十字社を講師に招いての訓練では、知らない人同士も協力し合い救助等の活動を行うことで、コミュニケーションの大切を学ぶことができた。

名久井農業高校文化祭への参加においては、復興状況のプレゼンテーション資料を準備し、発表を行い、プレゼンテーション能力を伸ばすことができた。また、山田町の特産品の販売では、品物の特徴を伝えながら、お客さんとコミュニケーションをとりながら販売することができた。

名久井農業高校の生徒から、積極的に話しかけられたこともあり、和やかな交流となった。

課題としては、名久井農業高校が来校した場合の復興学習の内容を、今年度本校1年生が総合的な探究で取り組んだ復興防災学習の発表を紹介するなど、改善することが挙げられる。

また、いわての復興教育スクール事業からの予算が停止された場合、交流の継続が困難になる。

以下、参加した生徒の感想。

[名久井農業高校1年女子]

今回、山田高校の防災訓練活動に参加して、怪我人を安心させて運ぶ方法や人の命を救う方法、怪我の処置の仕方などを学ぶ事が出来ました。また、山田高校の先生方や日本赤十字のボランティアの方々から震災の話を聞いて、とても胸が苦しくなりました。でもこうして復旧してきた今、自分たちにできることがあるのではと感じてくるようになりました。これからは他県であっても自分にできることは何かを考えていきたいと思います。今回、山田町防災訓練に参加し、鯨と海の科学館で、震災が起こり、津波が来た後の科学館の状況や、震災当時の山田町のこと、捕鯨が盛んだった時の山田町について、貴重なお話を伺うことができました。

[名久井農業高校1年女子]

鯨と海の科学館では、津波の恐ろしさについて知ることができました。山田高校では、防災訓練と応急処置を体験しました。馴染みのない所での防災訓練は勝手が効かずどこへ行けばいいのか分からずとても難しかったです。応急処置では、身近な物で簡単に応急処置ができることに驚きました。この体験で学んだことを今後に活かしていきたいです。

[山田高校2年女子]

名農のみなさんに、震災前の山田のこと、震災後の山田のこと、復興のためにしている活動、山高がどういう学校なのかなど、たくさんのお話を聞きました。山田の醤油などを求めに来る人もいて、すごい人気だなと思いました。

[山田高校2年女子]

山田の特産品をお客さんにアピールできて良かったです。買ってもらえるように、自分たちから声をかけたり、商品の説明や会計をしたりなど普段は余りすることのない経験をする事ができました。

2 サマーチャレンジやまだ2019

町に1つしかない高等学校としての存在意義を發揮できる貴重な機会であると同時に、異年齢との交流であり、本校生徒も成長できる場でもある。

また、学校の授業やクラブ活動で学んだことを生かすことができ、自己肯定感の涵養にも繋がっている。

課題としては、夏休み中の実施であることで、指導する教員の負担が大きいことが挙げられる。また、来年度は、パソコン教室等の新しい企画に取り組もうと考えているが、担当職員の負担が増加することが予想される。